

患者の皆様へ

2018 年 1 月 15 日

乳腺・甲状腺外科

現在、乳腺・甲状腺外科では、「乳癌における腫瘍内の制御性 B 細胞と制御性 T 細胞の共存と予後に関する研究」を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究で 1994 年から 2014 年に当院で手術された乳癌患者さまの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「乳癌における腫瘍内の制御性 B 細胞と制御性 T 細胞の共存と予後に関する研究」

2. 研究の意義・目的

体外から侵入する細菌やウイルスから体を守る免疫システムは、癌細胞に対しても作用するといわれています。免疫システムの重要な細胞の一つにリンパ球があり、リンパ球には様々な種類があります。今回、乳癌の周囲環境にどのような特徴をもつリンパ球が存在するのかを顕微鏡で調べます。それにより今後、免疫システムを利用した新しい治療法につながる有益な情報が得られる可能性があります。

3. 研究の方法

1994 年から 2014 年に当院で切除された手術検体のうち、術前化学療法を行っていない症例の検体を用います。通常の病理診断を行う際に作られる病理標本と、リンパ球のうち制御性 B 細胞と制御性 T 細胞と呼ばれるリンパ球をそれぞれ特殊な方法で染色した標本を、顕微鏡を用いて観察し、リンパ球の存在を評価します。また、電子カルテの記録から年齢や病理検査結果、治療内容、再発の有無等を確認し、顕微鏡像で評価したリンパ球の存在と関連があるかを調べます。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しません。データ等は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる机で保管します。

5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、データが匿名化され、解析される前であれば、情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学大学院 医学研究院 臓器制御外科学

本件のお問合せ先 : 千葉大学医学部附属病院 乳腺・甲状腺外科

医師 長嶋健、石神恵美、三階貴史

043（222）7171 内線5282